

FRENDYのインストール方法について



概要

- インストール先 : Ubuntu (Ubuntu 20.04.1 LTS)
 - ・Windows subsystem for Linuxを用いて、Windowsに Ubuntuをインストール
 - インストールしたUbuntu上でgcc等をインストールし、 FRENDYをコンパイルする
- ・本資料の説明は以下の通り
 - Windows subsystem for Linuxの導入
 - Ubuntuの設定
 - FRENDYのコンパイル



Windows subsystem for Linux の導入



Windows subsystem for Linuxの導入 (1)

- Windowsアイコンを右クリック
- 『アプリと機能(F)』を起動





Windows subsystem for Linuxの導入 (2)

右上の関連設定の『プログラムと機能』をクリック



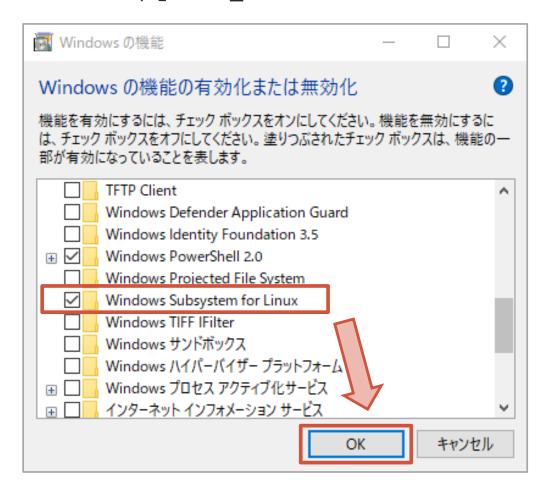
・ 左の『Windows機能の有効化または無効化』をクリック





Windows subsystem for Linuxの導入 (3)

中段辺りにある『Windows Subsystem for Linux』の チェックボックスをオンにして、『OK』





Windows subsystem for Linuxの導入 (4)

- 必要なファイルを検索していますと表示されるので、 しばらく待つ
- ・変更完了後、再起動を求められるので、Windowsを 再起動する





WSLへのUbuntuのインストール (1)

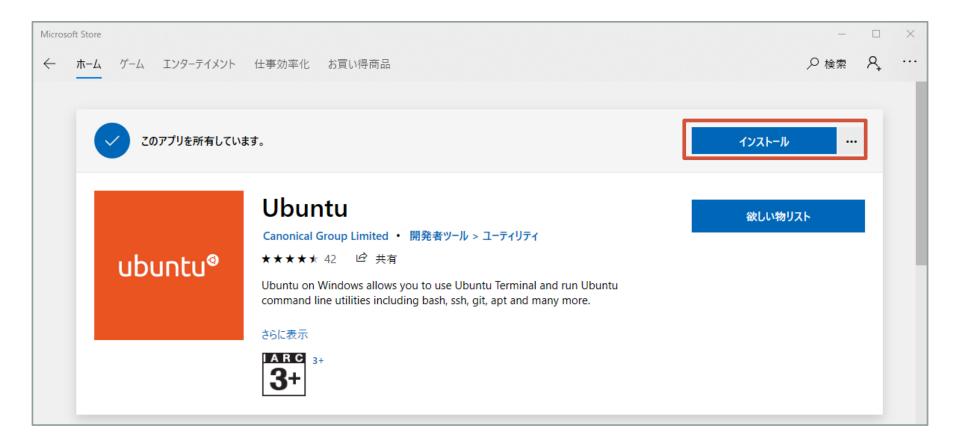
- ・Windowsを再起動後、Microsoft StoreでUbuntuを検索
- インストールしたいLinuxを選択





WSLへのUbuntuのインストール (2)

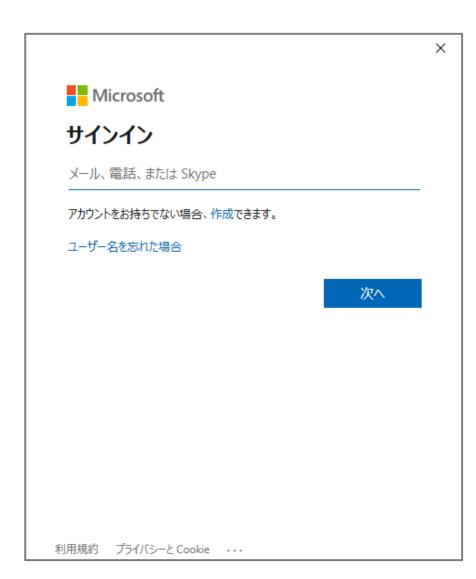
アプリの画面が出てきたらインストールをクリック





WSLへのUbuntuのインストール (3)

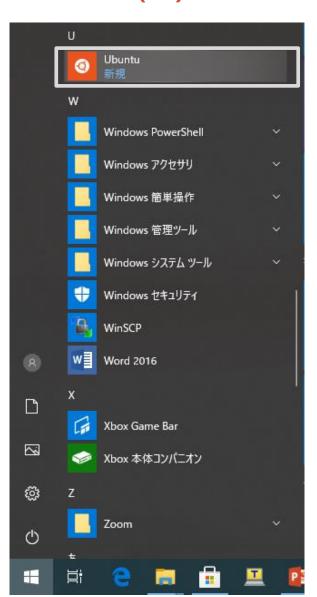
場合によってはサインイン を求められるので、その 場合はサインインを行う





WSLへのUbuntuのインストール (4)

- Ubuntuのインストールが完了すると、プログラム一覧にUbuntuが登録される
 - Ubuntuをクリックすれば、起動する





WSLへのUbuntuのインストール (5)

- Ubuntuを起動すると、図のようにターミナルが開き、インストール作業を行う
 - インストール作業が終わるまで数分~十数分程度かかります





WSLへのUbuntuのインストール (6)

- ・しばらくすると、Ubuntuで用いるユーザー名、パス ワードを求められる
 - ・このユーザー名、パスワードはWindowsのものと同じである 必要はない
 - ・パスワードはsudoコマンドなどを使う場合に必要となる
 - ・本資料ではユーザー名を『tada』と設定

```
Obuntu

Installing, this may take a few minutes...
Please create a default UNIX user account. The username does not need to match your Windows username.
For more information visit: https://aka.ms/wslusers
Enter new UNIX username:
```



WSLへのUbuntuのインストール (7)

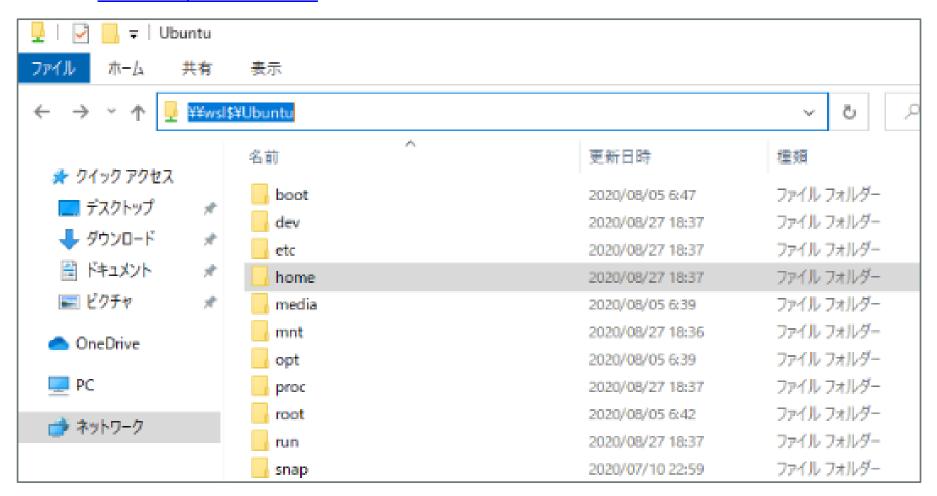
・ユーザー名、パスワードを入力すると、Ubuntuを使う 準備が完了する

```
tada@DESKTOP-8DR8GSO: ~
basswd: password updated successfully
Installation successful!
「o run a command as administrator (user "root"), use "sudo <command>".
See "man sudo_root" for details.
Welcome to Ubuntu 20.04.1 LTS (GNU/Linux 4.4.0-18362-Microsoft x86 64)
* Documentation: https://help.ubuntu.com
* Management: https://landscape.canonical.com,
                  https://ubuntu.com/advantage
* Support:
 System information as of Thu Aug 27 18:37:41 JST 2020
 System load:
                  0.52
                            Processes:
 Usage of /home: unknown
                            Users logged in:
                            IPv4 address for eth1:
 Memory usage:
 Swap usage:
 update can be installed immediately.
 of these updates are security updates.
To see these additional updates run: apt list --upgradable
The list of available updates is more than a week old.
To check for new updates run: sudo apt update
This message is shown once once a day. To disable it please create the
home/tada/.hushlogin file.
```



Ubuntuのディレクトリ

- ・Ubuntuのディレクトリは以下の通り
 - ¥¥wsl\$¥Ubuntu





Ubuntuを効率よく使うために

- デスクトップのディレクトリのリンクを貼ると便利
 - In -s /mnt/c/Users/ユーザー名/Desktop/ディレクトリ名
 - ・デスクトップ上のディレクトリでUbuntuとやり取りが可能に

```
ユーザー名
  tada@DESKTOP-8DR8GSO: ~
                       In -s /mnt/c/Users/
                                                       l/Desktop/wsl_data/ ./
otal 44
                                                                                       ディレクトリ名
                                             ドライブ名
                       4096 Sep 23
                                   20:06
            tada tada
            root root
            tada tada
                tada
            tada tada
                                         .gitconfig
            tada tada
                tada
                                         .gnuplot history
            tada tada
                                         .motd shown
            tada tada
            tada tada
                     0 Aug
25972 Sep
                                        .sudo_as_admin_successful
                                         .viminfo
                 tada
            tada tada
                         43 Sep 23 20:06 wsl_data ->
            tada tada
```



指定ディレクトリからのWSLの起動

- ・WSLではアクセスしたいディレクトリからの起動も可能
 - アクセスしたいディレクトリを開き、アドレスバーに『wsl』と入力 するだけ
 - アクセスしたいディレクトリに『wsl』という名前のディレクトリ、 ファイルがあるとうまく起動しないので要注意





コマンドプロンプトからのWSLの起動

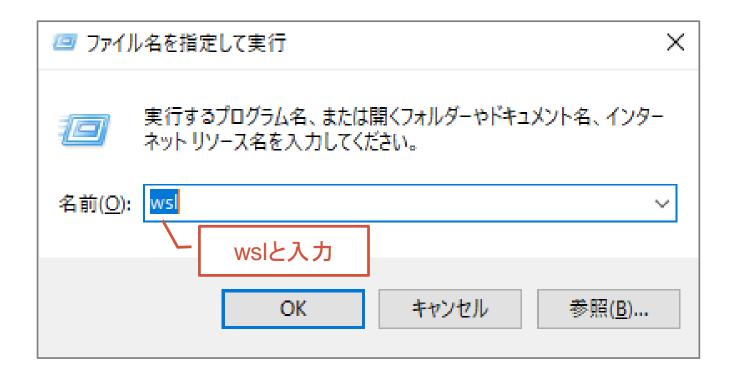
- ・コマンドプロンプトからもWSLは起動可能
 - コマンドプロンプトで『wsl』と入力するだけ
 - プログラムから開いても大きな差異はない
 - コマンドプロンプトから起動するか、プログラムから起動するかは 個人の好み





CUIでのWSLの起動

- ・マウスを使わず、キーボードのみでWSLを起動したい 場合は以下の操作で起動できる
 - Windowsキー+rでファイル名を指定して実行を開く
 - ・名前に『wsl』と入力し、エンターキーを押す





Ubuntuの設定



関連プログラムのインストール

- FRENDYをインストールするためにはいくつかのプログラムを事前にインストールする必要がある
 - tcsh:実行シェル
 - ・gcc、make:コンパイラ
 - Boost、Lapack、Blas、Eigen:ライブラリ
- ・サーバー管理者がいる場合、以降の操作は必ず サーバー管理者に確認し、サーバー管理者の監督 の下で行って下さい
- FedraやCentOSなど、他のLinuxをご利用の方は apt-getをyumなどに適宜読み替えて下さい



関連プログラムのインストール (1/3)

- インストール前にアップデートを行う
 - sudo apt-get update
 - sudo apt-get upgrade
- tcshのインストール
 - sudo apt-get install tcsh
 - CentOSの場合はsudo yum install tcsh

```
0:|$ sudo apt-get install tcsh
Reading package lists<del>... Done</del>
Building dependency tree
                                                     本資料の緑色の文字で記載した
Reading state information... Done
The following NEW packages will be installed:
                                                     コマンドを端末に入力すればOK
 upgraded, 1 newly installed, 0 to remove and 0 not upgraded
Weed to get 427 kB of archives.
after this operation, 1363 kB of additional disk space will be used.
Get:1 http://archive.ubuntu.com/ubuntu focal/universe amd64 tcsh amd64 6.21.00-1 [427 kB]
etched 427 kB in 2s (259 kB/s)
Selecting previously unselected package tosh.
(Reading database ... 31871 files and directories currently installed.)
reparing to unpack .../tcsh_6.21.00-1_amd64.deb ...
Jnpacking tosh (6.21.00-1) ...
Getting up tosh (6.21.00-1) ...
update-alternatives: using /bin/tcsh to provide /bin/csh (csh) in auto mode
Processing triggers for man-db(2.9.1-1)...
```



関連プログラムのインストール (2/3)

- gcc、makeのインストール
 - sudo apt-get install build-essential
 - インストールの有無を聞かれるので、『Y』を入力
 - インストールが完了するまで数分かかります
 - CentOSの場合はsudo yum install gcc
- Boostのインストール
 - sudo apt-get install libboost-all-dev
 - インストールの有無を聞かれるので、『Y』を入力
 - ・インストールが完了するまで数分~十数分かかります
 - CentOSの場合はsudo yum install boost boost-devel
- Lapack、Blasのインストール
 - sudo apt-get install liblapack-dev libblas-dev
 - インストールの有無を聞かれるので、『Y』を入力
 - CentOSの場合はsudo yum install lapack-devel blas-devel



関連プログラムのインストール (3/3)

- Eigenのインストール
 - この作業はランダムサンプリングツールをインストールしない場合 は不要です
 - sudo apt-get install libeigen3-dev
 - インストールの有無を聞かれるので、『Y』を入力
- CentOSの場合はyumでインストールできないので、以下の手順を取る必要がある
 - ①以下のサイトからEigen3をダウンロード
 - http://eigen.tuxfamily.org/index.php?title=Main_Page#Download
 - ②適当なディレクトリで解凍
 - ・ ③"eigen-3.X.X/Eigen"をfrendy_YYYYMMDDと同じディレクトリにコピーするかリンクを貼る

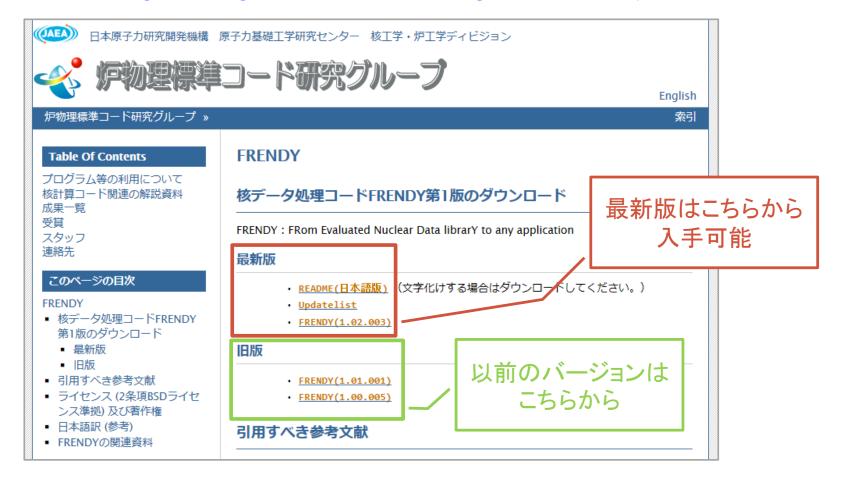


FRENDYのコンパイル



FRENDYの入手

- FRENDYはJAEAのHPから入手可能
 - https://rpg.jaea.go.jp/main/ja/program_frendy/





FRENDYの解凍

- FRENDY(frendy_YYYYMMDD.tar.gz)をダウンロードし、インストールするディレクトリにコピー
 - YYYYMMDDはリリース日
- FRENDYを解凍
 - tar -xvzf frendy_YYYYMMDD.tar.gz



FRENDYのディレクトリ構造 **FRENDYの** コンパイル用シェル compile_all.csh frendy **FRENDYの** main/frendy.exe 実行ファイル make perturbation factor Eigen サンプリングツール tools perturbation ace file リンクを貼り直す ACEファイル編集ツール frendy_ 必要あり sample **YYYYMMDD** 各クラスのテスト run_all_class.csh tests 計算実行用シェル

インストール方法は

こちらをチェック

改変履歴

README,

README_jp

Updatelist.txt



FRENDYのコンパイル

- frendy_YYYYMMDD/frendyのcompile_all.cshを実行
 - cd frendy_YYYYMMDD/frendy
 - csh ./compile_all.csh
 - コンパイルは10分程度かかります
 - 途中でWarningメッセージが出る場合あり
 - fatal errorが出なければ大きな問題はない
 - 画面上に『### Completed to make FRENDY ###』と表示され、frendy/mainに実行ファイル(frendy.exe)が作成されていればOK
- ・上記のコマンドが使えない場合
 - cd frendy_YYYYMMDD/frendy/main
 - make clean
 - make



FRENDYのサンプルプログラムの実行

- frendy_YYYYMMDD/sample/runに移動
 - cd sample/run
- run_frendy.cshを実行
 - csh ./run_frendy.csh
- ・いくつかの核種、TSLを自動で処理
 - H001, C000, O016, Fe056, Xe135, Gd155, U235, U238, Pu238, Pu239
 - ・軽水中のH、パラ水素、オルト水素、黒鉛(graphite)
 - 20~30分程度かかります
 - col_dataにj40a00fa、f40a00ta、xsdir.j40a00f、xsdir.j40a00tが出来ていればOK



ランダムサンプリングツールのコンパイル

- ・先にFRENDYをコンパイルしておく必要がある
- frendy_YYYYMMDD/tools/make_perturbation_factorに移動
 - cd tools/make_perturbation_factor
- Eigenライブラリのリンクをmake_perturbation_factorの下に作成
 - ・ Eigen3をapt-getでインストールした場合は以下の通り
 - In -s /usr/include/eigen3/Eigen/ ./
 - 元々の"frendy_YYYYMMDD/tools/make_perturbation_factor/Eigen"は削除するか、 上書きしてください
- 実行ファイルのコンパイル
 - make
- サンプルの実行
 - cd sample
 - csh ./run_make_perturbation_factor.csh
 - Warningメッセージが無く、output/1001に1001_0XXXの100個のファイルが生成されていればOK



ACEファイル編集ツールのコンパイル

- ・ 先にFRENDYをコンパイルしておく必要がある
- frendy_YYYYMMDD/tools/perturbation_ace_fileに 移動
 - cd tools/perturbation_ace_file
- 実行ファイルのコンパイル
 - make
- サンプルの実行
 - ・ 先にランダムサンプリングツールのサンプル計算を実行しておく必要がある
 - cd sample
 - csh ./run_perturbation_ace_file.csh
 - ・Warningメッセージが無く、outputに0001~0100の100個のディレクトリが出来ていればOK



Appendix A macOSでのFRENDYのコンパイル



macOSでのFRENDYのコンパイル

- ・macOSでもLinuxとコンパイル方法はほぼ同じ
 - ソースファイルをHPからダウンロード
 - https://rpg.jaea.go.jp/download/frendy
 - ダウンロードしたファイルを解凍
 - FRENDYのコンパイル
 - cd frendy_YYYYMMDD/frendy
 - csh ./compile_all.csh
 - 上記のコマンドが使えない場合
 - cd frendy_YYYYMMDD/frendy/main
 - make clean
 - make
- ・異なるのはboostやlapackのインストール方法
 - macOSではHomebrewを使うとLinux同様に簡単にインストール 可能
 - Homebrewを使ったBoost、Lapackのインストールは次ページに 記載



Homebrewのインストール

- macOS上でFRENDYに必要なBoostやLapackを導 入するため、Homebrewを利用する
 - Homebrew以外にはMacPortsなどもある
- Homebrewのインストールコマンドは下記の通り
 - /bin/bash -c "\$(curl -fsSL https://raw.githubusercontent.com/Homebrew/install/HE AD/install.sh)"
 - HomebrewのHPのトップにインストールコマンドが記載されているのでそちらもご参考に
 - https://brew.sh/



Boost、Lapackライブラリのインストール

- Homebrewを用いてBoostとLapackをインストール する
- Boostのインストール
 - brew install boost
 - もしPython関係でインストールが失敗する場合は下記のようにPython supportを無効化してインストールする
 - brew install boost –without-python
- Lapackのインストール
 - brew install lapack
 - インクルードパスおよびリンクパスの環境変数を設定
 - brew info lapack
 - 上記のコマンドを打ち、"For compilers to find lapack you may need to set:"と書かれている部分を参考にシンボリックリンクを作成する。



Appendix B VisualStudioを用いたFRENDYの コンパイル



VisualStudioを用いたFRENDYのコンパイル

- WindowsでのFRENDYのコンパイルでは、WSLを 使ってFRENDYをコンパイルする方法を説明
- VisualStudioを使ってFRENDYをコンパイルすることも 可能
 - ただし、かなりの手間がかかります
 - FRENDYを修正し、デバッグなどにVisualStudioを使いたい場合には本資料をご参照下さい



Boostのインストール (1/2)

- BoostのHPにアクセス
 - https://www.boost.org/doc/
- "Getting Started"をクリック
- ページ右下にある"Next: Getting Started on Microsoft Windows"をクリック
- Get Boostの項目にあるファイルをダウンロード
 - VisualStudioへのビルド方法が記載しているので、ダウンロードしてもページを閉じないこと!!
- ・ダウンロードしたファイルをboostをインストールする ディレクトリに移動し、ファイルを展開



Boostのインストール (2/2)

- Boostをダウンロードしたページの"Simplified Build Form Source"を参考にBoostをインストール
 - ・Windowsメニュー→Visual Studio→x64 Native Tools Command Prompt for VSを選択し、コマンドプロンプトを開く
 - Boostを展開したディレクトリに移動
 - 以下のコマンドを実行
 - bootstrap
 - .¥b2
 - Boostのコンパイルには1時間程度の時間を要する場合もある
 - ・Boostを展開したディレクトリ内の¥stage¥libにライブラリが 出来ていることを確認する



CLAPACKのインストール (1/3)

- CLAPACKのHPでCLAPACKのファイルをダウンロード
 - http://icl.cs.utk.edu/lapack-forwindows/clapack/index.html#build
- HP中のEasy Windows Buildを参考にインストール
 - CLAPACK用のCMAKEをダウンロード
 - https://icl.utk.edu/lapack-for-windows/clapack/clapack-3.2.1-CMAKE.tgz
 - ダウンロードしたファイルを展開
 - CMakeのHPでWindows版Cmakeをダウンロード
 - https://cmake.org/download/
 - Windows x64 Installerを使うと簡単にインストール可能



CLAPACKのインストール (2/3)

- インストールしたCmakeを起動
 - 以下の二つのディレクトリを指定
 - CLAPACKのソースコードを展開したディレクトリ
 - CLAPACKをビルドするディレクトリ
 - "Specify the generator for this project"でVisual Studioを選択し、"Finish"をクリック



CLAPACKのインストール (3/3)

- ・コンパイルが完了したら"Where to build the binaries"に CLAPACKをインストールするディレクトリを選択し、"Configure"をクリック
 - 例えばCLAPACKをビルドしたのが"D:\telapack\telapack\telapack\-3.2.1-CMAKE"なら、"D:\telapack\te
- "Generate"をクリック
- ・ "Open Project"をクリックすると、Visual Studioのウインドウが開く
- ・ソリューションエクスプローラーから"ALL_BUILD"を選択
 - ビルド→ALL_BUILDのビルドを実行
 - DebugとReleaseの両方とも実施する必要がある。



msdirent.hの入手

- msdirent.hを下記のHPからダウンロード
 - http://svn.apache.org/repos/asf/avro/trunk/lang/c/tests/m sdirent.h
 - ・ Visual Studioではdirent.hが使えないので、dirent.hの代替として、msdirent.hを使う
 - FRENDYのソースファイルが保存されている"frendy"の直下に"VisualStudio"ディレクトリを新たに作成し、msdirent.hを保存



FRENDYのコンパイル (1/5)

- VisualStudioを起動し、プロジェクトを作成する
 - ・"コードなしで続行"を選択する
- 以下の流れで『既存コードファイルからの新しいプロジェクトの 作成』をウィンドウを立ち上げる
 - ファイル→新規作成→既存のコードからプロジェクトを作成
- ・作成するプロジェクトの種類に"Visual C++"を選択し、"次へ" をクリック
- 下記のように『プロジェクトの場所とソースファイルの指定』を 行い、"次へ"をクリック
 - 『プロジェクトファイルの場所』に、FRENDYをコンパイルするディレクトリまでの絶対パスを記入
 - ・『次のフィルダーからプロジェクトにファイルを追加』にチェックを入れ、 FRENDYのソースファイルが保存されているディレクトリを追加
 - 『プロジェクト名』にFrendyなど、名前を入力する
 - これが今後のプロジェクト名となる



FRENDYのコンパイル (2/5)

- 下記のように『プロジェクト設定の指定』を行い、"次へ"をクリック
 - ・プロジェクトのビルド方法として『VisualStudioを使用する』 にチェックを入れる
 - プロジェクトの種類として『コンソール アプリケーション プロジェクト』を選択
- ・『デバッグ校正の設定の指定』には何も入力せず、" 次へ"をクリックし、"完了"をクリック
 - これでソースコードエディタが表示されるようになる



FRENDYのコンパイル (3/5)

- 左側のソースコードの一覧から下記のファイルを削除 する
 - main.cpp、main_frendy_njoy_mode.cpp
 - ・削除するには当該ファイルを右クリックし、「削除」→「クリア」 or「削除」
- ・プロジェクト→"プロジェクト名"のプロパティで『Project プロパティページ』のウインドウを開く
 - ・以降の作業はDebug、Releaseの双方で実施すること
 - プラットフォームがx64となっていることを確認すること
 - ・Win32を使う場合は、BoostやCLAPACKのインストールもWin32とする必要がある



FRENDYのコンパイル (4/5)

- インクルードディレクトリの追加
 - ・左欄の構成プロパティ→C/C++→全般の"追加のインクルード ディレクトリ"にboostをインストールしたディレクトリ、FRENDYの ソースコードのディレクトリ、msdirent.hを保存したディレクトリ名 を入力する。
 - 何:D:\(\text{D:Yboost_1_75_0}\);D:\(\text{Yfrendy\(\text{Ysrc}\)}\);E:\(\text{Yfrendy\(\text{Ysrc}\)}\);
- ライブラリディレクトリの追加
 - ・左欄の構成プロパティ→リンカー→全般の"追加のライブラリ ディレクトリ"にboostとLAPACKのライブラリディレクトリを追加
 - ・ LAPACKについては、LAPACK、BLAS、F2Cの各ディレクトリをそれぞれ追加のディレクトリとして指定する必要がある。
 - 場所が分からない場合はlibで検索して~.libというファイルがある場所を 探すこと。
 - 例: D:\footst_1_75_0\footslib; D:\footslapack\footslapack\footslib; D:\footslapack\footsl



FRENDYのコンパイル (5/5)

- ・依存ファイルの追加
 - ・左欄の構成プロパティ→リンカー→入力の"追加の依存ファイル"に以下の記載を追加
 - Releaseの場合
 - lapack.lib;blas.lib;libf2c.lib;
 - Debugの場合
 - lapackd.lib;blasd.lib;libf2cd.lib;
- ・右下の"適用"をクリックし、『Project プロパティページ』のウインドウを閉じる
- ソースエディタに戻ったらFRENDYをコンパイルする
 - ビルド→ソリューションのリビルド